

2026 年 9 月 7 日

トンゴガラ難民定住地区の難民等に対し、食糧支援を提供

9 月 7 日、前川信隆駐ジンバブエ大使は、バーバラ・クレメンス国連世界食糧計画（WFP）事務所代表との間で、供与額 2 億円（約 130 万米ドル）の無償資金協力「食糧援助（WFP 連携）」に関する書簡の署名・交換を行いました。

ジンバブエには、23,000 人を超える難民及び保護希望者が暮らしており、その大多数はトンゴガラ難民定住地区に居住しています。女性と子どもが居住人口の 4 分の 3 を占めており、多くの世帯が依然として食料安全保障上の課題に直面しています。

この協力を通じて、ジンバブエに住む 11,300 人の難民及び保護希望者に対し、穀物等を支援するとともに、5 歳未満児、妊娠中・授乳中の女性、慢性疾患を抱える人々を含む最も脆弱な人々に的を絞った栄養支援を行います。

前川大使は、「日本は人間の安全保障を推進し、最も脆弱な人々が健康で尊厳ある生活を送れるよう、必要なサービスへのアクセスを着実に広げていきます。WFP とジンバブエ政府とのパートナーシップを通じて、日本は難民世帯の食料安全保障と栄養を改善し、将来的な自立に資する取組を支援しています。」と述べました。

バーバラ・クレメンス代表は、「この寛大な支援をいただいた日本政府と日本の皆さまに感謝します。人道支援のための資源が世界的に大きな圧力にさらされているこの時期にあって、この支援は、トンゴガラの難民と保護希望者が必要とする栄養価の高い食料へのアクセスを引き続き確保し、子ども、母親、その他の脆弱な人々の栄養上の健康を守る助けとなります。このパートナーシップは、誰一人取り残さないという私たちの共通の決意を反映しています。」と述べました。

エドガー・モヨ公共サービス・労働・社会福祉大臣は、「ジンバブエ政府は、我が国で受け入れている難民及び保護希望者への支援における日本政府と WFP の継続的な支援に感謝しています。この支援は、脆弱な人々が十分な食料と栄養にアクセスできるようにするための私たちの協働の取組を強化するとともに、ジンバブエ国内への避難を求める人々に保護、尊厳、機会を提供するという我が国のコミットメントを強化するものです。」と述べました。

日本政府の継続的な支援は、日本、WFP 及びジンバブエ政府の強固で永続的なパートナーシップを示すものです。日本は、過去 7 年間で WFP を通じて 1,270 万米ドルの食糧支援を

提供してきました。WFP は、ジンバブエ政府及び人道支援パートナーと緊密に連携し、トンゴガラ難民居住地に住む難民及び保護希望者を支援するとともに、長期的なレジリエンスと自立の機会の促進にも取り組んでいます。

(署名式の状況)



モヨ公共サービス大臣臨席の下、
E/N 署名に臨む本使とクレメンス WFP 代表



本使のスピーチ



E/N 等に署名を行う本使と
クレメンス WFP 代表



E/N 等を交換する本使と
クレメンス WFP 代表